

オリンピック・パラリンピックを通して児童生徒に育みたい教育的価値を、「おもてなし」「心のバリアフリー」「スポーツ」「グローバル」の4つのプロジェクトに整理しました。

プロジェクトごとに目指す児童・生徒の姿を、令和2年度における各学校の実践を交えて紹介します。

おもてなし

ボランティアに積極的に参加する意欲をもち、温かいおもてなしができる児童生徒の育成



学校の周囲の道路沿いに、生徒全員で花の苗を植えて環境を整備しました。学校を訪れる方や地域の方の気持ちを思いやる、温かな心を育みました。

(成田市立久住中学校)

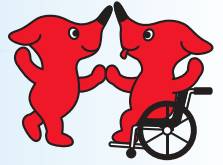
県内で事前キャンプを実施する海外の選手団に、歓迎や応援の気持ちを伝えるため、チーバクんのぬいぐるみを活用した記念品を企画・制作するとともに、おもてなしの意味を考え、訪日外国人に接する際のマナーやルールを学習しました。

(県立八千代高等学校)



心のバリアフリー

共生社会の形成者にふさわしい、障害のある人や高齢者等を含めた他者を理解する児童生徒の育成



地元柏市出身のパラリンピックバドミントン強化指定選手を招いて講話を聴き、パラバドミントンの体験をしました。児童たちから、



「障害の有無に関係なく、困っている人がいたら進んで声をかけようと思う」となどの感想が挙がりました。

(柏市立酒井根小学校)

Web会議ツールを活用し、パラアスリートとの交流を実施しました。アスリートの生き方に触れ、困難に立ち向かう勇気と、一生懸命努力することの大切さを学びました。障害のある人に対する意識を大きく変えるきっかけとなり、充実した学びとなりました。

(香取市立新島小学校)



スポーツ

生涯を通じてスポーツに親しみ、スポーツの楽しさや感動を分かち合う児童生徒の育成

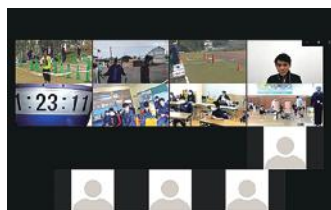


千葉県開催競技であるフェンシングのトップアスリートを招き、交流を行いました。解説を聴きながら対戦の様子を見学したり、これまでの体験談などを聴いたりして、なじみのなかったフェンシングへの関心を高めることができました。

(鴨川市立西条小学校)

東上総地区3校の県立特別支援学校が「リモート駅伝大会」を実施しました。会場は各学校とし、実際には目の前にいない、スクリーンに映った相手校のチームを意識することにより、意欲的に競走に取り組むことができました。

(県立東金特別支援学校・長生特別支援学校・夷隅特別支援学校)



グローバル

自国の歴史伝統文化について理解を深め、他国の歴史や文化、言語について学び、世界を舞台に活躍する児童生徒の育成



オーストラリアの小学校とWeb会議ツールを活用して交流を行いました。英語の授業で学んだ会話を活用し、「ランドセル」や「おみこし」について積極的に紹介することができました。自国について発信する力と、



相手国の文化の素晴らしさを認める気持ちを育むことにつながりました。

(浦安市立見明川小学校)

ドミニカ共和国に、松戸の梨の苗が送られ、育てる技術が伝えられていることを知り、同共和国について調べ学習を行ったり、梨のデザートレシピを英語で作成したりする活動を行いました。身近にある梨と世界のつながりを知り、外国への関心を高めることができました。

(松戸市立大橋小学校)



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会終了後も、多くのオリパラ教育の実践が発展的に引き継がれるとともに、千葉の子供たちに無形のレガシーとして受け継がれることを目指します。